

在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名：社会医療法人 恵和会 西岡病院

1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

当院の位置する札幌市豊平区西岡地区の高齢化率は25.6%と、札幌市の中でも高齢化率の高い地域である。(資料1:人口動態)従前より医師会活動等を通し、近隣の医療機関との緊密な連携を行い「顔見知り」の関係を築いていたが、地域の在宅医療・介護に関して多職種協働で取り組む組織はなかった。昨年度設立した札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会(「とよひら・りんく」)を活動拠点とし、在宅医療連携拠点が行う必須タスクの活動および地域における課題に対しての取り組みを行った。昨年度の活動を通じ、我々の地域では①居住系施設での看取り支援、②急変時の入院体制、③訪問診療を行っている診療所の連携、に主な課題があると考えた。これに対し①終末期カリキュラム研修会の実施、②当院の入退院連携体制の充実、③機能強化型在宅療養支援病院としての体制構築、参加呼びかけを行った。

2 拠点事業の立ち上げについて

拠点事業の立ち上げに当たって、参加メンバーを当方から選定することは行わず、拠点事業の参加メンバー、役職者等の選定は合同会議に諮った。立ち上げに際しては、事前に行政、医師会等の関係団体や近隣の医療・介護・福祉の関係機関等へ出向き、本事業および協議会の設置について説明と協力を要請した。当初は様々なご意見も頂いたが、地域の医療機関、介護事業所の多くの方々から好意的に対応して頂いた。

平成23年6月に第1回合同会議を開催し、下記の資料の提案を行った。特に設置要綱は多機関、多職種が協働で活動を行う上で重要と考えた。

(資料2:NewsLetter 第1号)

- ・「協議会設置要領」

- ・「協議会個人情報保護規程」
- ・「協議会個人情報方針」
- ・「協議会連携システム説明、同意書、撤回書」
- ・「個人情報保護に関する誓約書」
- ・通称公募について

平成23年9月に第2回合同会議を開催し、第1回合同会議で提案した資料の検討、役員を選出、通称の決定(「とよひら・りんく」)がなされた。

地域の診療所の医師にも副会長として参加を頂いた。

(資料3:NewsLetter 第2号)

ホームページを平成23年12月29日に開設し、合同会議・各種研修会の案内、合同会議・各種研修会の内容・アンケート結果等を掲載したNewsLetterの掲載、広報誌、訪問薬剤・看取り等のリーフレットの掲載等、活動の情報を公開している。

とよひら・りんくホームページ

[\(http://www.toyohiralink.jp/\)](http://www.toyohiralink.jp/)

3 拠点事業での取り組みについて

業務は連携拠点に配置された医療ソーシャルワーカーと介護支援専門員の資格を持つ看護師等が中心となって行った。

- (1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

平成24年9月に医療・福祉資源の把握を行った。また平成23年度、近隣の介護施設の医療ニーズの患者様の受け入れ状況の調査を行った。

(資料4:医療受入状況)

今年度、終末期カリキュラム研修会の実施にて、医療ニーズの方の受け入れ状況が変わりつつあり、来年度、あらためて調査を行う予定である。

また、介護施設の災害時の対応状況(マニュアルの整備、備蓄状況等)の把握を行った。

上記の内容について、合同会議で共有を行った。

- (2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の

参加の仲介を含む。)

年度4回の合同会議を行った。今年度、北海道では当院のほか、3拠点为本事業に取り組んでおり、拠点間の連携を目的に合同会議に招き、講演をして頂いた。

・第1回合同会議(平成24年6月25日開催)

(資料5:NewsLetter第7号)

・平成24年度の活動についての説明

五十嵐 知文 副会長(西岡病院副院長)

・多職種研修会の報告(盛岡市での研修会)

古澤 ともみ 看護師(訪問看護ステーション
水源池すずらん所長)

川村 爲美 看護師(西岡病院地域連携室)

川中 誉代 氏(有料老人ホーム)

シルバーハイツ羊ヶ丘1・2番館ケア課長)

佐藤千智子 氏(有料老人ホーム)

シルバーハイツ羊ヶ丘1・2番館ケア係長)

・グループワーク

ー拠点機能について

ー口腔ケアと訪問薬剤について

ー医療・介護連携について

ー看取り体制の構築について

ー災害発生時の取り組みについて

・第2回合同会議(平成24年8月27日)

(資料6:NewsLetter第9号)

・タッピーねっと(札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会)の取り組み

星野 豊 会長(東苗穂病院 院長)

・災害発生時に備えた対応策の検討について

医療支援について(医療支援隊の活動)

西岡水源池通りクリニック 寺本 信 院長

HOT 患者様の支援について

帝人在宅医療株式会社

・災害発生時のマニュアル(案)について

岡村 紀宏(とよひら・りんく事務局)

・訪問薬剤指導マニュアル(案)について

上田 直人 薬剤次長(西岡メディカル薬局)

・第3回合同会議(平成24年11月26日)

(資料7:NewsLetter第11号)

・夕張市立診療所の取り組み

夕張市立診療所 森田 洋之 所長

・看取り実践の報告について

介護老人保健施設アムニティ西岡

谷野 良美 看介護師長代理

アムニティ西岡水源池グループホーム

諏訪 悦子 看護師

・グループワーク(情報共有について)

KJ法を用いたグループワーク

・第4回合同会議(平成24年3月11日)

(資料8:NewsLetter第14号)

・手稲家庭医療クリニックの取り組み

手稲家庭医療クリニック 小嶋 一 院長

・訪問薬剤指導について

札幌薬剤師会 河野 裕樹 氏

・今年度の活動について

五十嵐 知文 副会長(西岡病院副院長)

・グループワーク(今年度の取り組みの総括)

KJ法を用いたグループワーク

(3) 研修の実施

・終末期カリキュラム研修会

平成23年1月17日に活動地域内の介護保険施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、グループホーム)の施設長等と意見交換会を行った。施設体系は違うが、緊急時や終末期の対応に問題を抱えていることが明らかになった。特に終末期(看取り)については、職員に対する支援が必要であることが課題としてあげられた。

(資料9:NewsLetter第4号)

現状分析を目的に活動地域内の介護施設の看護職、介護職を中心にアンケートを行ったところ、約6割の介護職の方が看取りの経験が無く、約7割の介護職の方が看取りについて「経験がない」「やり方が分からない」と感じていることが明らかになった。

(資料10:第15回日本在宅医学会大会発表資料)

そこで今年度、活動地域内で住み慣れた地域や施設で最期を迎えることができるよう終末期カリキュラム研修会として4回の研修を開催した。

第1回終末期カリキュラム研修会

(平成24年7月23日)

(資料11:NewsLetter第8号)

- ・研修会の目的について
五十嵐 知文 副会長(西岡病院副院長)

- ・グループワーク

- －看取り指針の作成
(医師、施設長等の管理職を対象として)
- －介護施設における看取り介護の現状と課題
(介護施設の看介護職を対象として)

第2回終末期カリキュラム研修会

(平成24年9月24日)

(資料12:NewsLetter 第10号)

- ・講演会

- －「チームもりおか活動と看取り介護への支援」
チームもりおか所長 板垣 園子 氏
- －「住み慣れた地域、施設で看取ること」
ぬぐまるの家代表取締役 菊地 要子 氏

第3回終末期カリキュラム研修会

(平成24年12月17日)

(資料13:NewsLetter 第12号)

- ・医療機器体験会

除細動器、在宅酸素、CVポート、喀痰吸引

第4回終末期カリキュラム研修会

(平成25年1月28日)

(資料13:NewsLetter 第12号)

- ・看取りに関するアンケート実施報告

川村 爲美 看護師(西岡病院地域連携室)

- ・看取りに関する事例報告

宮本 美雪 氏(特別養護老人ホーム

看護師)

佐藤千智子 氏(有料老人ホーム

シルバーハイツ羊ヶ丘1・2番館ケア係長)

- ・グループワーク(今年度の取り組みの総括)

KJ法を用いたグループワーク

- ・口腔ケア研修会(平成25年2月8日)

口腔ケアについて、札幌歯科医師会、札幌歯科衛生士会の協力を頂き、研修会を実施した。

- ・講演会

－「口腔ケアの仕組み」

札幌歯科医師会 中澤 潤 氏

(口腔医療センター企画部長)

- －「口腔ケアの実際」

北海道歯科衛生士会 木本 恵美子 氏

(副会長)

- ・実習指導

(4) 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

平成23年度から訪問診療、往診の医師の間で登録患者の情報共有を行い、担当医師不在時にも対応できる体制を整えた。

登録を開始した平成23年11月は5医療機関(在宅療養支援病院:1、在宅療養支援診療所:4)であったが、平成25年3月現在、7医療機関(在宅療養支援病院:1、在宅療養支援診療所:6)となった。

平成24年4月からは機能強化型在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所として連携体制を強化している。患者情報は(6)で述べる情報共有システムにより運用している。また、この情報共有システムは、訪問看護師、ケアマネジャー等の在宅介護事業所や訪問薬剤師、急変時の後方支援を担う当院(在宅療養支援病院)の地域連携室、入院病棟でも活用している。

(5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施(平成24年実績)

- ・医療ソーシャルワーカーが医療介護連携の中核となり、退院時カンファレンス(退院時共同指導5件、介護支援連携指導料37件)を行った。退院調整も行った(退院調整加算125件)。

- ・看護師(介護支援専門員資格有)が地域包括支援センター、ケアマネジャーからの相談に対し、医療的な助言等を行った(52件)。

(6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

- ・情報共有システム

平成23年度、情報共有システムを構築し、平成23年11月から患者登録を開始した。登録対象の患者様は在宅、介護施設の訪問診療を行っている方としている。情報共有システムの特徴として、下記があげられる。

- ・インターネット網を利用(SSLによる暗号化通信)

- ・タブレット端末の利用(ユビキタスコンピューティング)
- ・地図・位置情報を利用した対象患者までの経路検索

(資料 14: 情報共有システム)

情報共有システム(登録について)

システム登録経過(平成 24 年度)

施設入所のため	34
通院困難	20
退院後、訪問診療導入	18
サ高住入居のため	13
主治医変更	5
転居のため	5
行政からの相談	2
その他	1
合計	96

(資料 15: 登録患者推移)

性別

男性	28
女性	68
合計	96

情報共有システムについて(削除について)

システム削除経過(平成 24 年度)

主治医変更	15
医療機関 永眠	12
特別養護老人ホーム入所	9
医療機関 長期入院	8
在宅看取り	7
施設看取り	4
合計	55

必要な情報共有の内容については、「急変時」「通常時」等の状況により異なることから、今年度、情報共有システムを活用している医師、薬剤師、看護師等へアンケートを行ったほか、第3回合同会議にてKJ法を用いたグループワークを行い、その結果をふまえてシ

ステムの改修作業を行った。

(資料 16:

情報共有について)

(7) 地域住民への普及・啓発

[市民フォーラム]

平成 25 年 2 月 23 日市民フォーラム

「これからの医療と介護を考える～それぞれの思い」

地域住民、行政・医療・介護関係者等、約 400 名

(資料 17: NewsLetter 第 13 号)

[地域講話]

・平成 24 年 4 月 25 日地域講話

「つら～い花粉症とうまくつき合うために」

場所 西岡水源池通りクリニック 参加 13 名

講師 西岡水源池通りクリニック 寺本 信 院長

・平成 24 年 9 月 1 日地域講話

「これからの在宅医療について」

場所 西岡会館 参加 30 名

講師 岡村 紀宏(西岡病院地域連携室)

大澤 悟志(西岡病院リハビリテーション科)

・平成 24 年 11 月 7 日地域講話

「こわ～いインフルエンザのお話」

場所 西岡水源池通りクリニック 参加 6 名

講師 西岡水源池通りクリニック 寺本 信 院長

・平成 24 年 11 月 14 日地域健康教室

「高齢者をとりまく医療・介護

～生活習慣病をもつ高齢者が豊かな日常生活を送るためのアドバイス～

場所 シダックスパーティールーム 参加 14 名

医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士による講話

[広報誌とよひら・りんくの発行]

第 1 号(平成 24 年 7 月発行)

第 2 号(平成 24 年 12 月発行)

(8) 災害発生時の対応策

[備品購入]

災害に備え除細動器等を購入し、職員訓練を行った。

[停電に備えた訓練]

平成 24 年 7 月 13 日に訓練を行い、非常用電源の電圧に問題が発見され、無停電電源装置を配備した。

[災害発生時のマニュアル、組織図]

第1回合同会議のグループワークにて検討し、第2回合同会議にて提案した。

(資料18:災害発生時の資料)

[地域包括支援センター運営会議]

平成24年9月25日、豊平区地域包括支援センター運営会議に出席した。「とよひら・りんく」による災害発生時の対応策について説明し、「災害に対する関係機関、団体の取り組みの現状や課題」についての意見交換を行った。

(資料12:NewsLetter 第10号)

[福祉タクシー意見交換会]

活動地域内の福祉タクシー業者に集まって頂き、意見交換会を行った。(平成24年6月15日 11名参加、平成25年11月9日 12名参加)

当会の取り組みを説明し、災害発生時に患者様搬送の協力を得ることが出来た。連絡手段、訓練、災害規模の想定等の今後の課題が共有された。

4 特に独創的だと思う取り組み

(1) 北海道在宅医療連携拠点事業連絡会

・北海道保健福祉部医療政策局医療薬務課、北海道における本事業採択機関担当者間の連携を行った。

連絡会として打合せを行った(平成24年6月14日)ほか、メーリングリストを作成し、相互に合同会議の案内を行い、会議に出席し合うことやメールでの情報交換、共有を北海道保健福祉部医療政策局医療薬務課、北海道における本事業採択機関担当者間で行った。

(2) 入退院の対応について

・在宅療養支援病院として急変時の後方支援を行った。

当院入院実績(情報共有システム登録患者)

平成24年度:43名

入院前

在宅	29
グループホーム	7
有料老人ホーム	7
合計	43

入院時

診療時間内	37	内)救急搬送 8
診療時間外	6	内)救急搬送 5
合計	43	

入院対応の疾患内訳

呼吸器疾患	17
循環器疾患	11
消化器疾患	9
悪性腫瘍	3
脳血管疾患	2
皮膚疾患	1
合計	43

退院後

在宅	18
グループホーム	7
有料老人ホーム	6
入院中(平成24年度末)	6
永眠	4
介護老人保健施設	2
合計	43

・在宅療養支援のための病床運営の取り組み、地域連携室の機能拡充について

(資料19:成果報告会資料)

(3) 情報共有システム

・タブレット端末、スマートフォンを利用した患者情報共有システムの構築を行った。

・レンタルサーバーを利用することにより安価に構築できた。

(4) 終末期カリキュラム研修会

・看介護職のアンケートに基づき、看取り体制の構築に取り組んだ。

・札幌市消防局を訪問し、消防法、消防組織法等について確認を行った。

(5) 食事形態についての打ち合わせ

・当院と介護施設の医師、看護師、ソーシャルワーカー、管理栄養士等が集まり、各機関の食事形態内容の確認と統一化に向けて、打ち合わせを行った。

(資料 20: 食事形態の打ち合わせ資料)

5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

- ・合同会議でのグループワーク(KJ法を用いて、課題を抽出し、発表し合い、公開する)
- ・終末期カリキュラム研修会(アンケートの分析に基づき、研修内容を決定し、年間通しての研修会を行った。活動地域内の全介護施設が看取り介護に取り組み、平成 24 年度内に 2 施設で新たに看取り介護が行われた。

6 苦労した点、うまくいかなかった点

(1) 情報共有システム

- ・リアルタイムな情報提供の維持、管理、更新
- (2) 地域住民への普及啓発活動
- ・まだ十分とは言えず、地域包括支援センター、介護予防センターとの協働が必要である。

(3) 合同会議、研修会への参加

- ・活動地域内でまだ不参加の施設、事業所があり、当会の取り組み、成果を伝え、参画して頂く必要がある。

(4) アウトカム指標の蓄積

- ・活動地域における医療、介護の適切な指標について把握し、分析する必要がある。

7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

- ・拠点事業の立ち上げ、取り組みの進行には地域の実情を踏まえた慎重かつ丁寧な説明対応が望まれる。
- ・活動主体の位置づけ、既存の地域ケア会議の活用または協議会の設立(会則、役員等の決定)
- ・機能強化型在宅療養支援診療所(病院)との連携
- ・後方支援(受け入れ態勢)の確保
- ・施設の課題にそった研修会(アンケート調査、意見交換会での課題の抽出)

8 最後に

その他の活動

(1) 論文等

・一般社団法人日本在宅医学会

「日本在宅医学会雑誌」第 14 巻 第 2 号

(資料 21:「日本在宅医学会雑誌」第 14 巻 第 2 号)

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の立ち上げと平成 23 年度の活動

・北海道医療ソーシャルワーカー協会ニュース

「ぱぶりけーしょん」第 34 号

(資料 22:「ぱぶりけーしょん」第 34 号)

地域住民と創る安心して暮らせる町

(2) 学会発表

- ・第 15 回日本在宅医学会(平成 25 年 3 月 30.31 日)
(愛媛県)

*「住み慣れた地域、施設で最期を迎えるために～地域での看取り体制確立に向けた取り組み」

(資料 10:第 15 回日本在宅医学会大会発表資料)

*拠点事業所ポスター発表

(資料 23:ポスター資料)

- ・第 54 回全日本病院学会(平成 24 年 9 月 21.22 日)
(神奈川県)

*「在宅医療の推進への取り組み

～「とよひら・りんく」の活動から」

※最優秀演題賞

(全日本病院協会雑誌への原稿執筆中)

(資料 24:発表スライド、抄録集(一部))

- ・第 12 回北海道病院学会(平成 24 年 6 月 30 日)

(北海道札幌市)

*「在宅医療の推進への取り組み

～「とよひら・りんく」の活動から」

※優秀演題賞

(資料 25:発表スライド、抄録集(一部))

(資料 26:北海道病院協会HOKPITAL Vol. 45)

(3) 講演、講師派遣

平成 24 年 4 月 24 日 在宅医の会(札幌市)

札幌市の在宅医の有志による勉強会

平成 24 年 6 月 17 日 第 59 回北海道薬学大会

(札幌市)

(資料 27:第 59 回北海道薬学大会抄録集 他)

平成 24 年 6 月 26 日 札幌市南区在宅ケア連絡会
平成 24 年 9 月 13 日 札幌市中央区在宅ケア連絡会
平成 24 年 9 月 29 日 北海道医療ソーシャルワーカー協会
平成 24 年 10 月 21 日 大幸砂田橋クリニック(愛知県)
平成 24 年 11 月 16 日 めろんねっと合同会議

(北海道夕張市)

平成 24 年 11 月 21 日 札幌市厚別区在宅ケア連絡会
平成 25 年 1 月 13 日 日本医療社会福祉協会研修会

(資料 28:月刊ケアマネジメント 2 月号)

平成 25 年 2 月 2 日 北海道地域リーダー研修会

(資料 29:研修会スライド資料)

平成 25 年 2 月 16 日 北海道医師会都市医師会

介護保険担当理事懇談会

平成 25 年 2 月 26 日 札幌市白石区在宅ケア連絡会

(4)視察の受け入れ

平成 24 年度在宅医療連携拠点事業採択機関、行政、医療機関等、合計 6 ヶ所の視察の受け入れを行った。

(5)平成 24 年度とよひら・りんく作成広報誌、パンフレット

- ・広報誌とよひら・りんく平成 24 年 7 月発行(資料 30)
- ・広報誌とよひら・りんく平成 24 年 12 月発行(資料 31)
- ・訪問薬剤指導について(資料 32)
- ・ご自宅でご家族を看取られる方へ(資料 33)

以上